



『^{へいち}平和とは ごめんなさいと ありがとう』

今年も68回目の終戦記念日が巡ってきます。毎年毎年慰霊を行い、戦争の愚行も恥じ、平和への誓いを新たにしているはずなのですが、年々大河の流れは人知れず不穏な方向へと蛇行している気配をはっきりと感じてしまいます。

争い事は個人の間でも国同士でもいつでも互いが「正義」を振りかざします。そして正義と正義が相手を傷つけ、相手を殺してしまいます。正義…これほど曖昧で危険な武器はありません。いや、正確には正義の尺度の違いが問題なのであり、尺度の共有なくしては永遠に平和はおとずれず、怨念のみがそこに巣食っていくのでしょうか。

お釈迦さまは「恨みは恨みによって消えず、恨みは恨み無きによってはじめて安らぐ」とおっしゃいました。この仏教の平和思想こそがイギリスの歴史学者トインビー博士をして「平和の原理は東洋の思想にある」と言わしめたのでした。私たちはこのお釈迦さまの尊い教えを実践しなければ仏教徒とは言えません。中には「そりゃ絵空事じゃ、理想じゃ」と言う人もあるかも知れません。しかし、いついかなる時でも立場でも、他者の幸せや命を奪うことは決して許されません。許してはならないのです。

仏教者として過去の過ちを共有しておかなくてはならないことがあります。日本仏教界の多くは第二次世界大戦中に従軍僧として戦地に赴き、或いは内地国民に対し戦意高揚の喚起のためにお釈迦さまの教えを歪曲して布教に充てたり、さらには教団から戦闘機奉納まで行われた事実があります。戦後何年も経ってから釈明と懺悔声明文が発せられましたが、同じ仏教者としてどのような理由があろうとも過ちは繰り返してはならないと固く宣誓しておかねばなりません。戦争は人を狂わせると申します。狂った人間が戦争を始め、人民を巻き添えにしつつ最後は殆どが狂人と化してしまうのです。

サザンとエノケン

先日何気なく聴いていたラジオから、活動休止に入っていたサザンオールスターズが5年ぶりに復活というニュースが入ってきました。そして流れてきたのが新曲「ピースとハイライト」でした。その歌詞は…

♪何気なく視たニュースで お隣りの人が怒ってた／今までどんなに対話してもそれぞれの主張は変わらない／教科書は現代史をやる前に時間切れ／そこが一番知りたいのに／何でそうなっちゃうの？”／希望の苗を植えて行こうよ／地上に愛を育てようよ／未来に平和の花咲くまでは…憂鬱／絵空事かな おとぎ話かな／互いの幸せ願うことなど♪

桑田佳祐氏ならではの再活動です。震災、原発事故、政治不信、混沌経済、外交不安…日本中が何を信じ、どこへ向かえばよいのかの見定めができなくなった時世にこのようなメッセージを引っ提げてヒーローが帰ってきた感じです。彼自身も大病という貴重な経験をし、世情に対してももどかしさや苛立ちからアーティストとしてのジレンマが働き、今回の復活へとつながったのかも知れません。

歌は時代とともに生活の中から生まれ、民衆の心を捉え、ときに動かします。私もいわゆるフォークソング世代？ですので、ボブディランやピートシーガーの歌にショックを受け、岡林信康や高田渡の唄を好んで歌ったりもしていました。そんな中でエノケンこと榎本健一さんの「武器ウギ」という歌には肝を抜かれたことでした。戦後間もない1949年の歌なのです。ご紹介いたしましょう。

『武器ウギ 〈無茶坊弁慶〉』 唄：榎本健一（作詞・作曲：三木鶏郎）

♪「世界に平和を！ 暴力を出すな許すな町ぐるみ／刃物の持ち歩きはやめましょう／スローガンだけではダメだ！ 実行使／一千本の刀をとりあげに／京の五条の橋の上に／レッツ・ゴー ゴー・ゴー」

♪武器を棄てましょ 棄てましょ武器／武器を棄てましょ 棄てましょ武器
刀を下さい ホレ あなたの刀／京の五条の橋の上から
ちよいと出ました 無茶坊弁慶／刀を下さい ホレ あなたの刀
ドスやパチンコ こわくはないけど／だてに持ってりゃ それこそ大変
武器ならなんでもこい 棄てましょ武器を／軍艦大砲 作ってみても
海に沈めちゃ なんにもならない／それより住宅 作ってくれりゃ
可愛いあの娘と ハネムーン／原爆水爆 作ってみても
地球が全滅 なんにもならない／それよりハイウェイ 作ってくれりゃ
可愛いあの娘と ドライブできる／武器を棄てましょ 棄てましょ武器
武器を棄てましょ 棄てましょ武器♪

*この歌の再生は「エノケン 武器ウギ」で検索するとYouTubeで聴けます。